

# 浜松一丸 天竜材PR



山で伐採された丸太を取引する市場。浜松市などは、五輪施設に地域産材の採用を目指している（3月31日、同市浜北区で）

本県の林業は、低価格で品質が安定した外国材に押されて、長らく低迷が続いてきた。しかし、近年は、公共建築物への積極的な利用に加え、2020年の東京五輪・パラリンピックの競技施設などで国産材が採用される見通しどとなるなど、明るい兆しも見えてきた。若者の就業者も徐々に増えている。復活に向けて模索する林業の現場を紹介する。

五輪に売り込め

手がける「三立木材」（浜松市天竜区）の河島和一郎社長（72）は魅力を語る。

先月下旬に同市天竜区で開かれた天竜材の振興協議会の会議で、市林業振興課の担当者は、地元の林業関係者ら約30人を前に力強く呼びかけた。

東京五輪・パラリンピックの競技施設には、大量の木材が建設資材として使われる見込みだ。政府は、日本文化の発信とともに地方創生の一環として五輪施設に木材の積極的な利用を目指している。

よみがえる  
林業

浜松市天竜区の天竜材は、国産材の中で高い評価を受けており、気候が温暖なこの地では、北国と比べると

の採用を目指します。活用されれば、アンテナシヨップの役割を果たし、世界にPRされる」

**森林認証取得 後押し**

新国立競技場などで地域材が採用されるには、環境に配慮した森林管理を証明する「森林認証」の取得などの条件を満たさねばならない。

森林認証には、国際NGO「FSC（森林管理協議会）」（本部・ドイツ）が運営する「FSC認証」や、日本では一般社団法人「緑の循環認証会議」（東京）の「SGEC認証」がある。

県内では、浜松市が先駆的に取り組み、FSC認証を取得した森林面積は、全国の市町村で1位。また、川根本町がFSC認証を、静岡市や富士市、富士宮市などがSGEC認証を一部森林で取得した。

内の五つの業界団体は昨年11月に協議会を設立した。小山町は今年度、町有林約450㌶のSGEC認証の取得を目指す。同町では、町を中心とした木材を「富士山一釜材」としてブランド化を進める。町の担当者は「東京への距離の近さや、『富士山』の知名度を大いに生かしたい」と意気込む。このほか、伊豆市もSGEC認証の取得を目指す。

県森林組合連合会天竜営業所の高橋雅弘所長(57)は「林業の復活に向けて、五輪は木の良さを知ってもらう大きなチャンス。環境に配慮した認証材は、五輪後も継続的に消費者に選ばれるだろう」と意義を語った。

代表的なのが、新国競技場だ。技術提案書によれば、「木と緑のスタジアム」をテーマにして、観客席を覆う大屋根には約18000立方㍍もの杉やカラマツが使われる予定だ。これは住宅1棟20立方㍍で90棟分にあたる。このほか、東京都が新たに整備する有明アリーナでも約1000立方㍍の木材が使われる見込みだ。

東京都の担当者は「整備する施設には、入り口のロビーなど内装にも積極的に木を使って、世界に和の雰囲気を感じてもらいたい」と話す。

全世界が注目する五輪で、地域産材が採用されれば、「木と緑のスタジアム」をテーマにして、観客席を覆う大屋根には約18000立方㍍もの杉やカラマツが使われる予定だ。これは住宅1棟20立方㍍で90棟分にあたる。このほか、東京都が新たに整備する有明アリーナでも約1000立方㍍の木材が使われる見込みだ。

ば、ブランド化が図られ、販路拡大につながる。浜松市のみならず、県内や全国の自治体は売り込みに懸念だ。

浜松市の鈴木康友市長は「1月下旬、遠藤利明・五輪相を訪れ、天竜材をPRするなど、自民党幹部や建設会社にトップセールスを繰り返してきた。「国内の競合相手に負けないよう気を

証会議」(東京)の「S C  
がある。

県内では、浜松市が先  
組み、F S C認証を取得  
積は、全国の市町村で1  
川根本町がF S C認証を  
富士市、富士宮市などが  
証を一部森林で取得した  
認証取得の動きはさら